

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：商業動態統計(2015年5月)

発表日：2015年6月29日(月)

～下げ止まりつつあるが、見た目ほどはよくない～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝  
TEL：03-5221-4524

(単位：%)

		商業販売額		卸売業		小売業		大型小売店			コンビニ販売額	
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店前年比	百貨店前年比		スーパー前年比
2014	1月	4.4	1.8	4.4	2.8	4.4	1.6	0.7	0.0	3.3	▲1.8	▲0.1
	2月	2.5	▲1.8	2.0	▲1.6	3.6	0.1	2.4	1.4	2.9	0.6	0.9
	3月	8.5	7.0	7.5	4.0	11.0	6.5	17.0	16.2	25.3	11.1	2.8
	4月	▲3.4	▲10.3	▲3.0	▲9.4	▲4.3	▲13.4	▲6.0	▲6.7	▲9.9	▲5.1	▲0.3
	5月	▲1.0	2.6	▲1.3	2.0	▲0.4	3.8	▲0.5	▲1.2	▲1.9	▲0.8	1.3
	6月	▲0.6	▲0.2	▲0.5	▲0.3	▲0.6	0.9	▲1.2	▲1.8	▲2.3	▲1.5	0.2
	7月	0.1	0.6	▲0.1	0.9	0.6	0.6	0.3	▲0.6	▲0.4	▲0.7	0.8
	8月	▲1.6	▲1.5	▲2.8	▲0.5	1.2	1.2	2.8	1.6	2.0	1.4	▲0.3
	9月	1.6	2.8	1.3	1.7	2.3	1.7	1.7	0.5	1.8	0.0	0.9
	10月	0.3	▲0.9	▲0.1	0.0	1.4	▲0.6	1.0	0.0	0.2	▲0.1	1.1
	11月	▲2.7	▲1.6	▲4.1	▲0.8	0.5	0.0	1.9	1.1	1.5	0.9	0.6
	12月	▲1.4	0.8	▲2.0	0.1	0.1	0.0	0.7	0.1	0.6	▲0.2	0.9
2015	1月	▲2.7	0.5	▲3.1	2.3	▲2.0	▲1.9	0.6	0.0	▲0.4	0.2	1.6
	2月	▲3.3	▲2.4	▲4.0	▲3.4	▲1.7	0.7	2.0	1.3	3.5	0.2	0.8
	3月	▲8.3	1.4	▲7.7	▲1.0	▲9.7	▲1.8	▲12.3	▲13.0	▲17.7	▲10.1	▲0.6
	4月	2.5	0.4	1.8	0.5	4.9	0.3	9.5	8.6	13.7	6.3	4.1
	5月	▲2.0	▲2.0	▲4.2	▲3.1	3.0	1.7	6.2	5.3	6.3	4.8	1.6

(出所) 経済産業省「商業動態統計」

## ○下げ止まりつつあるが、見た目ほどはよくはない

経済産業省から発表された5月の小売業販売額は、前年比+3.0%（コンセンサス：同+2.2%、レンジ：同+0.7%～+3.7%）とコンセンサスを上回った。季節調整値では前月比+1.7%と、2ヶ月連続の増加で伸び幅も高いものとなった。ただし、内訳をみると「飲食料品小売業」の増加で半分以上が説明できる。経済産業省によれば、「飲食料品小売業」の増加は好天や物価上昇、需要回復が重なったためとのことだ。この内、好天、物価上昇については実態回復とは言い切れず、小売業販売額は下げ止まりつつあるものの見た目ほど改善ペースは速くないだろう。実際、物価の影響を考慮した実質小売業販売額（実質化、季節調整は筆者）は前月比+0.2%と小幅増加であり、底入れの兆しはみられるものの足取りの鈍さは拭えない。

先に公表された家計調査の結果は芳しいものではなかったことや本日公表された消費財出荷も弱い動きが続いていることを併せて考えると、足元の個人消費は低調の域を脱していないものとみられる。

## ○業種別の動向

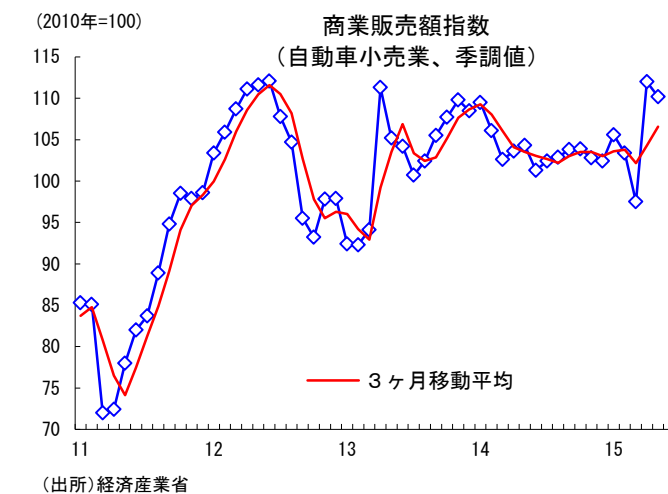
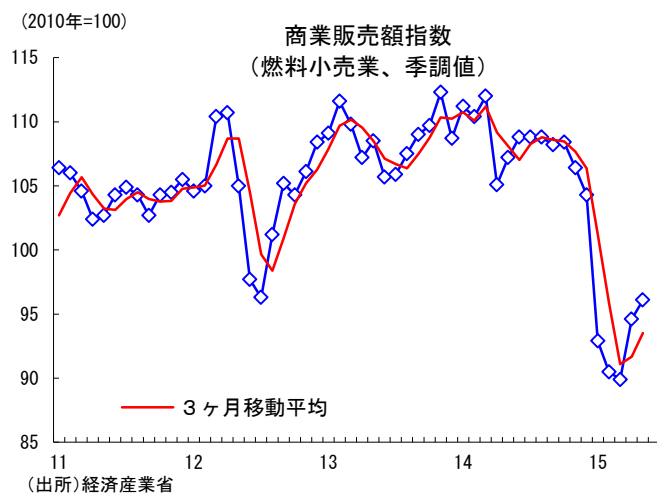
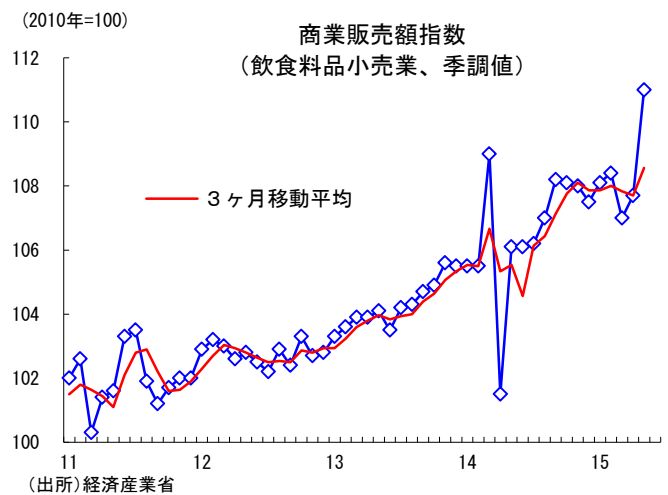
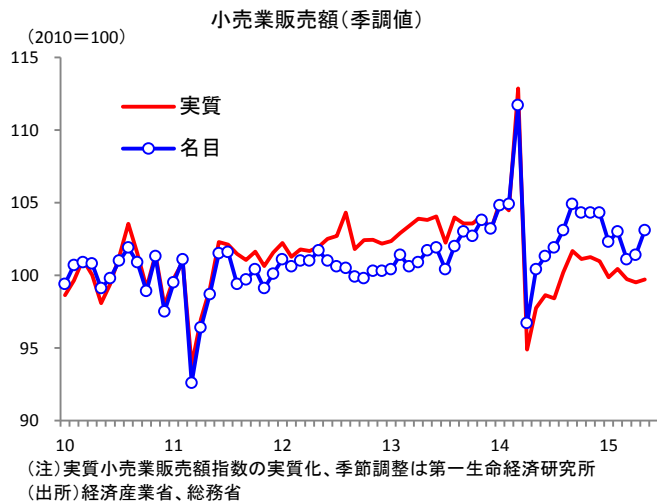
業種別に名目季節調整値をみると、「飲食料品小売業」（前月比+3.1%）が小売業を牽引した。「飲食料品小売業」の増加は食料品の値上がりや好天による飲料需要の高まりなどが影響したとのことだ。ただ、過去と比較してかなり高い伸び（参考：駆け込み需要が生じた2014年3月 同+3.3%）となっており、今後の持続性には疑問が残る。また、ガソリン価格の上昇を受けて「燃料小売業」（同+1.6%）の増加が続いたほか、百貨店を含む「各種商品小売業」（同+2.4%）、「織物・衣服・身の回り品小売業」（同+0.9%）が増加した。一方で、「自動車小売業」（▲1.6%）、「機械器具小売業」（同▲0.3%）が減少した。「自動車小売業」は前月に大幅増加した割には減少幅が小さく、高水準を維持している。ただし、日本自動車販売

協会連合会が公表している新車販売台数（季節調整は筆者）をみると、軟調な推移が続いており、今後の動向には注意が必要だ。「機械器具小売業」は均してみれば、昨年秋以降横ばい程度の推移が続いている。

### ○個人消費は年後半から持ち直しへ

総じてみれば、足元の個人消費は低調であるとみられるが、小売業販売額はようやく下げ止まりの兆しがみえつつあることや家計調査では重石となっていた項目で基調が上向き始めたことなど、改善に向けた一歩はみられつつある。消費を取り巻く環境は改善していることを踏まえれば、先行きの個人消費は再び回復基調に戻っていくとみている。14年度の消費の重石となった実質賃金は、足元で改善しつつある。先行きについても、名目賃金は好調な企業収益を受けた夏のボーナスの増加、春闘効果の顕在化による所定内給与の増加が見込まれる中、物価は原油価格の下落を受けて前年比マイナス圏入りが予想され、実質賃金は改善基調を辿ると予想している。雇用については、雇用者数が高水準にある中、雇用に先行する新規求人数も緩やかな改善がみられる。企業の人手不足感は依然強いことを踏まえれば、先行きの雇用は緩やかな改善傾向で推移するだろう。

消費者マインドは足元で改善に一服感があるものの、前述の雇用、所得の改善や物価の鈍化を背景に先行きは一段の改善が見込まれる。こうした要因が後押しになることで、個人消費は緩やかな増加基調を辿ろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。